

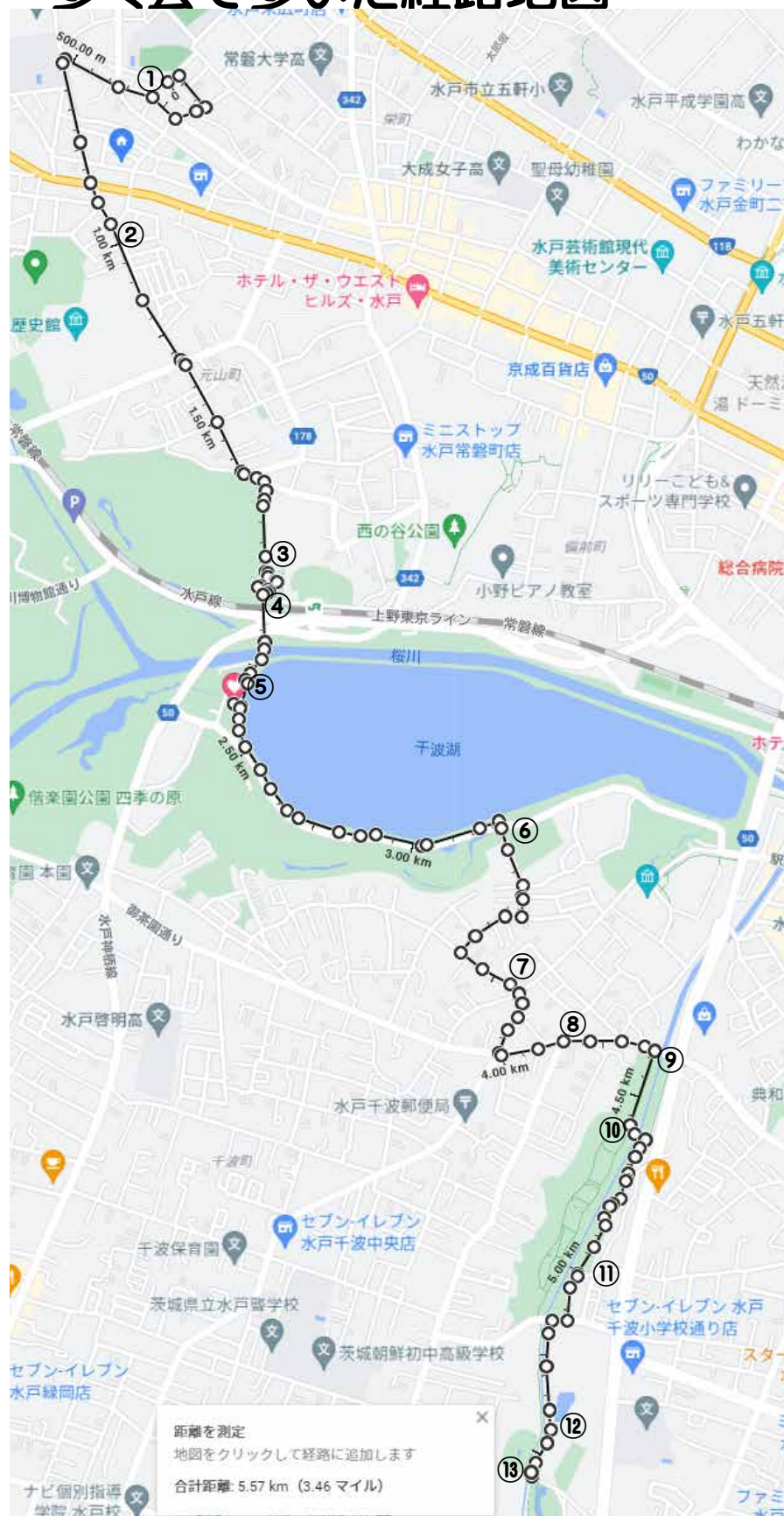
令和3年度新荘地区歩く会 (2021.11.21(日))

秋の逆川緑地を歩く

【光圀公が敷設した笠原水道を訪ねて】



歩く会で歩いた経路地図



地図 No. 時刻 地点名

- ① 0835 新荘市民センター発
- ② | 歴史館前通過
- ③ 0906 偕楽園東門通過
- ④ 0908 偕楽橋陸橋通過
- ⑤ 0913 黄門茶屋休憩
0927 黄門茶屋発
- ⑥ 0940 千波湖湖南坂通過
- ⑦ 0947 住宅地通過
- ⑧ 0952 御茶園通り通過
- ⑨ 0957 逆川緑地着
- ⑩ 1000 ふれあい橋休憩
1010 ふれあい橋発
- ⑪ | 自然道 (1km)
- ⑫ 1021 岩樋の遺跡
- ⑬ 1030 笠原水源地着
1034 集合写真撮影



① 830 朝礼 新荘市民センター出発前



一中前通過



表門入口前



偕楽園御成門前



③ 偕楽園東門前



七曲がり坂



④ 偕楽橋



黄門茶屋到着

千波湖水鳥



⑤ 黄門茶屋前休憩



茶屋の黄門様



出発



救護班待機



千波湖南湖畔



南湖畔横断



⑥ 湖南坂 登坂



消防団検閲 遭遇



⑦ 住宅地通過



⑧ 御茶園通り通過



⑨ 逆川緑地着





⑩ ふれあい橋前休憩



⑪ 自然道（笠原水道跡地） 木道通過





⑫「岩樋」の遺跡



発掘調査によって出土した水路の「岩樋」の遺跡

茨城県指定史跡

笠原水道

昭和13年3月11日指定

笠原水道は、水戸城下南方の笠原から城下^{しもまち}町まで引いた江戸時代の上水道である。第2代藩主徳川光圀は、下町住民が飲料水に困っていたため、水道の敷設^{ふせつ}を命じ、寛文2年（1662）に着工、翌年7月に完成した。笠原不動山の湧水を水源とする水路は、下町に至るまでの総延長10.8kmに及び、主に地中を通した。

水路の本線は、神崎寺下から切り出した凝灰質泥岩^{ぎょうかいしつでいがん}によって作られた。完成後もたびたび修理・改良を重ね、昭和7年（1932）に那珂川から取水する上水道ができるまで使われ、その後も一部では利用されていた。

ここに展示したのは、当公園内で行われた発掘調査によって出土した水路の樋^{とい}で、ごく一部ながら往時の水道を偲ぶことができる。本市における重要な近世遺跡の一つである。

水戸市教育委員会



平成16年の発掘調査で出土した笠原水道の様子

笠原水道の歴史



笠原水源地入口「水神橋」着、右側が水源地



⑬ 笠原水源地

浴徳の碑（左手前）、竜頭栓（中央）、笠原不動尊・水戸神社（右奥石段上）



2021.11.21 新莊地区歩く会参加者の皆さん 笠原水源歴史広場にて

THE END